

秩父広域市町村圏組合新火葬場建築 基本設計【概要版】

秩父広域市町村圏組合（以下「組合」）では、平成19年度に「秩父斎場整備基本構想」を、平成24年度に「新火葬場建設事業基本計画」を策定しました。このたび、基本構想・基本計画を踏まえ、施設建築計画の方針を定めた「新火葬場建築 基本設計」を実施しました。今後は、この基本設計に基づき、より詳細な「実施設計」を行う予定です。

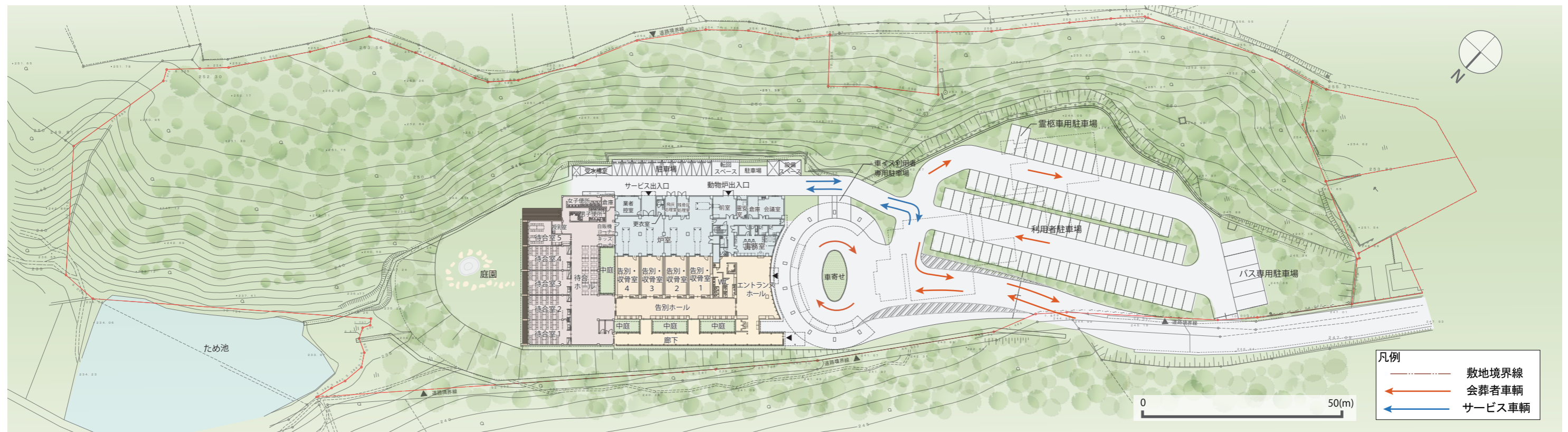
■基本設計コンセプト

基本設計は、『郷土秩父の里山に抱かれた「里の森」の火葬場』を設計コンセプトとし、以下の点に留意して行っています。

- 秩父の里山と共生し「里の森」に静かに佇む環境と調和した火葬場
 - ・儀式的の流れと遺族・会葬者の気持ちを大切に、各々の場面にふさわしく、記憶に残る雰囲気づくりを行います。
- 緑豊かな里山の風景をそのままに、地形を活かした敷地利用計画
 - ・山並みに合わせた勾配のある大屋根により、火葬炉施設の高さや火葬炉排気筒が意識されない秩父の里山景観に調和した計画とします。
- 火葬場の施設特性に配慮し誰もが穏やかに利用できる葬送環境の創出
 - ・他会葬者との動線交錯のない円滑でコンパクトな動線とし、全ての利用者にわかりやすく合理的な施設とします。
- 施設特性に応じた細やかな配慮で運営コストを縮減
 - ・イニシャルコストや、運営段階まで見据えたランニングコストの低減を図り、トータルコストの削減を目指します。

■配置計画

- ・アプローチから谷あい方向へ緩やかに下る敷地形状を利用して、火葬炉施設を敷地の奥に配置し、火葬炉施設の高さや火葬炉排気筒が意識されない配置計画とします。
- ・建物は敷地東側に配置し、現火葬場のある西側を駐車場として整備することにより、西側の近隣住宅地からの離隔を最大限確保します。
- ・敷地北側に広がるコナラの既存林に大きく接する施設配置とし、里山の自然に包まれた潤いのある空間を創出します。
- ・敷地内は歩道を設け、歩行者と車輛の動線を分かりやすく安全に分離します。
- ・車寄せロータリーへつながるアプローチ道路は、集中時の待機スペースとして機能します。
- ・造成範囲を最小限に抑え、既存林を可能な限り残した施工エリアとし、環境保全と近隣住民に配慮した計画とします。
- ・工事中の施設利用者の安全を第一に、工事期間中の施設利用形態を十分考慮し、3段階に分けたローリング計画とします。



○配置計画イメージ (S=1/1000)

※本概要版の内容については、今後の実施設計で変更になる場合があります。